

～ユーザーズボイス Vol.1～ （高野 誠さん/北海道女満別） フィールドスター®P 乳剤で てんさいの 2 回目の 雑草防除に余裕が持てました。

（取材：2019 年 8 月）



（高野 誠さん/北海道女満別）

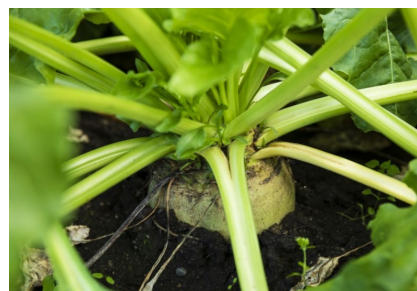
小麦、豆类、馬鈴薯とともに北海道の輪作体系の一つとして重要な基幹作物として位置づけられているのが、てんさいです。てんさいは別名「ビート」や「砂糖大根」とも呼ばれ、根の部分からは砂糖のほかにも食物繊維や、オリゴ糖も生産されており、国内生産のすべてを北海道が占めています。一方、てんさいは病害虫や雑草に悩まされることが多く、反当りの労働時間が大きくなりがちです。

今回は、てんさいの雑草管理に悩む生産者に、畑作用土壌処理除草剤「フィールドスターP 乳剤」をご使用いただきました。

今回フィールドスターP 乳剤をご使用いただいたのは、高野誠（たかの あきら）さん。北海道東部に位置する網走郡大空町女満別で 28 ヘクタールの畑を持ち、てんさい、小麦類（春播小麦、秋播小麦）、豆类を生産しています。

てんさいは、他の畑作物に比べて単位面積当たりの収益性が高いものの、労働時間が約 2～3 倍と長く、昨今の農家の大規模化と相まって生産者の負担になっています。

特に高野さんが頭を悩ませているのが雑草害です。「防除のなかで雑草防除が重要。害虫、病気よりも雑草害が一番収量に影響を与えています」（高野さん）



フィールドスターP 乳剤を使い始めたのは 2018 年から。「移植後の適期に散布したところ、平年に比べ雑草の発生が少なく、特にイネ科、イヌホオズキに効いたと思いました」と効果を実感し、今年（2019 年）も 5 月に散布しました。「散布しなかった圃場に比べて、雑草（イネ科、シロザ、イヌホオズキ、タデ類）が少なかった」と感じ、来年（2020 年）も引き続き使用したいとのこと。

また、てんさいには殺虫剤の「カスケード乳剤」も使用しているそうです。

（写真下中央は愛猫マロちゃん）

